

## 携帯メール連絡網 江津の自治会導入

石見部初

送り手が情報を一括送信でき、受け手がどこにいても確認できる携帯電話のメールの利点を生かした、新しい連絡網を、

江津市江津町の本町第三自治会が十八日から導入した。住民同士のコミュニケーションの活性化と、安全、安心な地域づくりに役立てる。

同地区出身の石本光史さん(51)が社長を務める、システムデザイン・アクティ(松江市浜乃木七丁目)が、開発した情報伝達システムを無償で提供。松江市内の二つの自治会に続く導入で、石見部では初めて。

一巡するのに数日かかる回覧板を補完する連絡手段との位置付けで、参加は任意。約六十世帯、百五十人のうち、現在、十四人が登録している。登録者には、自治会の会議や行事、慶弔などの

携帯電話を利用した新しい連絡網で届いたメールを確認する地区の住民たち



情報をメール送信するほか、開設した携帯ホームページにも自治会情報を掲載。今後は、警察や学校、行政などと連携し、防犯や防災情報など幅広い利用を考えている。

十八日夜に登録者十人が参加して開いた説明会で、運用管理者の元会社員、山藤昭彦さん(51)が、連絡網の概要や、独自に定めた個人情報保護方針

を説明し、登録者に初メールを送信した。同自治会の高原克茂会長(59)は「高齢者が多いが、新しい情報伝達手段に対応できるようにしておくことも大切な」と話した。